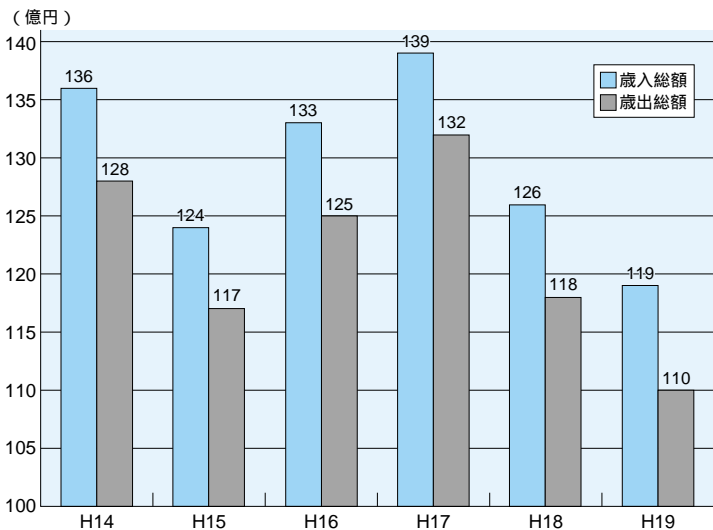


財政事情

町では、「大網白里町財政事情の作成及び公表に関する条例」に基づき、皆さんから納めていただいた税金等がどのように使われたか、また、使う予定なのかを知っていただくために、『財政事情』を年2回（5月と11月）公表しています。今回は、平成19年度決算の概要と、平成20年度上半期（4月～9月）の収支状況をお知らせします。なお、先月号では、平成19年度の健全化判断比率と資金不足比率をお知らせしています。
 財政課財政班 ☎(70)0310

一般会計 決算規模

平成19年度の決算規模は、歳入が約119億円、歳出が約110億円となりました。ここ数年の規模の推移をみると、平成16年度および17年度は、町債の借り換え等の特殊要因があったため大きくはなっていますが、その影響を除外すると、実質的には徐々に縮小傾向にあるといえます。



一般会計 決算収支

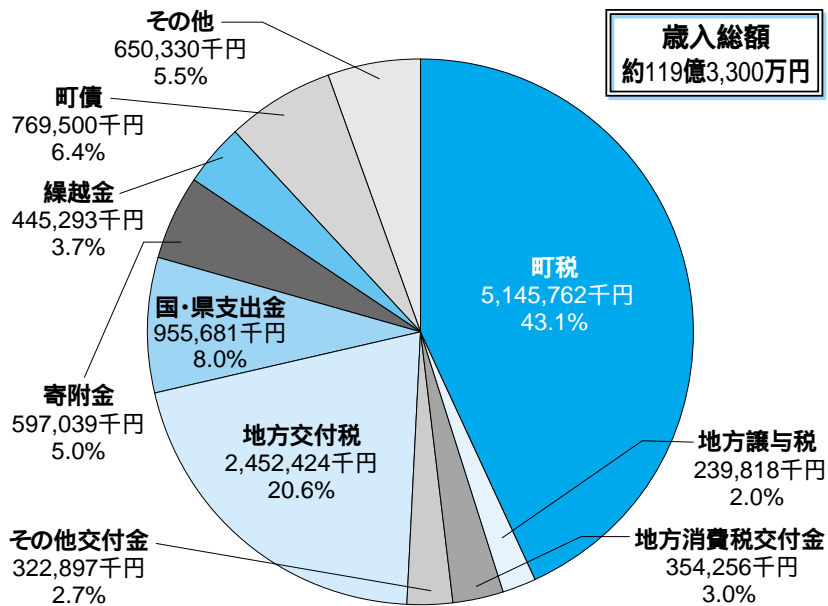
平成19年度決算は、単年度収支、実質単年度収支とも前年度より減少しました。これは、地方交付税や地方譲与税の減額などにより一般財源（使途の特定されないお金）の総額が減少した一方、扶助費（福祉にかかるお金）や公債費（借金の返済額）が増加したことが影響しています。

区分	19年度	18年度
歳入総額	A 11,933	12,629
歳出総額	B 11,007	11,784
形式収支	C (= A - B) 926	845
翌年度へ繰り越すべき財源	D 203	50
実質収支	E (= C - D) 723	795
単年度収支	F 72	420
積立金	G 5	166
繰上償還金	H 4	0
積立金取り崩し額	I 103	29
実質単年度収支	F + G + H - I 166	557

単年度収支 = 当該年度の実質収支 - 前年度の実質収支

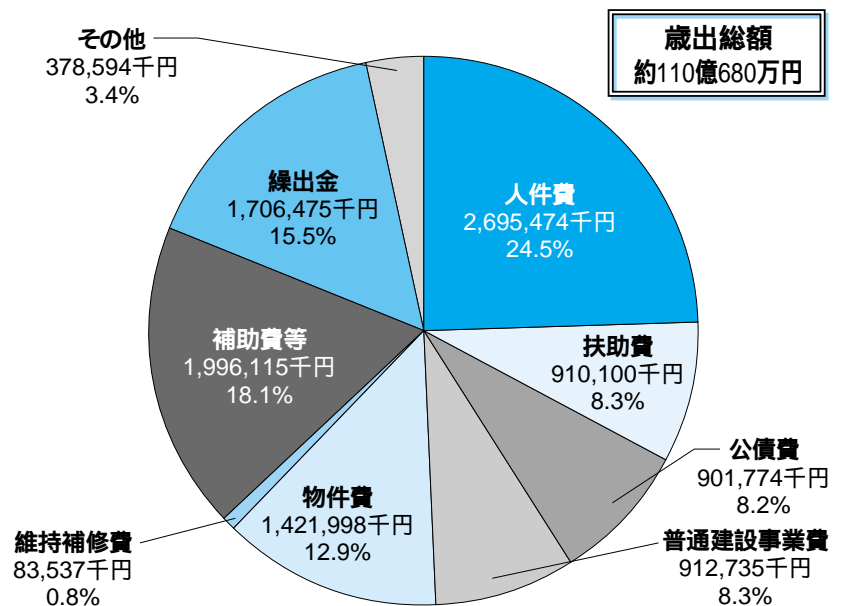
一般会計 歳入決算

本町の歳入は、町税と地方交付税の占める割合が大きくなっています。前年度と比較し、町税は、定率減税の廃止や税源移譲の影響で増額となりましたが、一方で、地方交付税は三位一体改革の影響で減額となり、それらと地方譲与税、各種交付金を加えた一般財源総額も減少しました。



一般会計 歳出決算 (性質別)

本町の歳出を性質別に見てみると、人件費、補助費等（一部事務組合等への負担金等）、繰出金（特別会計への繰出金等）の順に多くなっていますが、ここ数年は扶助費および公債費の伸びが顕著になっています。一方、普通建設事業費は大幅な抑制を進めた結果、前年度比40%以上の減額となりました。



歳入1万円の使いみち (一般会計・目的別)

歳入の使いみちを目的別に見てみると、民生費がもっとも多く、次いで総務費、衛生費、教育費に順になっています。ここ数年では民生費の伸びが顕著になっていますが、これは、義務的な扶助費が増加していること、出産子育て支援事業等の少子化対策・子育て支援事業の充実に力を入れていることが要因です。また、大網白里アリーナ建設事業債や臨時財政対策債の元金償還が始まった影響で、公債費も増加傾向にあります。カッコ内は前年度決算との比較

合計	民生費	総務費	衛生費
10,000円	・少子化対策・子育て支援事業 ・心身障害者扶助 ・老人福祉 ・保育所、学童保育の運営 等 2,246円 (+299円)	・町有財産の管理 ・徴税、戸籍関係経費 ・その他一般行政経費 等 1,534円 (-40円)	・乳幼児医療費助成 ・健診や講座等を通じた保健推進 ・環境保全やごみ処理 ・上水道 等 1,460円 (+56円)
教育費	土木費	公債費	消防費
・幼稚園、小・中学校教育の推進 ・学校教育施設の管理・整備 ・生涯学習やスポーツ振興 等 1,386円 (-165円)	・道路、河川の管理 ・都市整備の推進 ・公園管理 ・下水道 等 1,286円 (-251円)	・借入金元金、利子の返済 819円 (+70円)	・消防団費 ・消防施設の整備 ・防災対策の推進 等 591円 (+30円)
農林水産業費	商工費	議会費	その他
・農業振興 ・農地改良 ・農道整備 等 391円 (-16円)	・海岸整備 ・商工振興 ・観光振興 等 148円 (+9円)	・町議会の運営 139円 (+9円)	・災害復旧費 0円 (-1円)